

メッセージを掲げて京都市内を行進する宗教者

# 宗教超え命の行進

## 悩める人々にメッセージ

### 「京都いのちの日」

自死・自殺問題に取り組む宗教者がメッセージを掲げて行進する「Life Walk 2023」が1日、京都市内で行われた。超宗派の「京都いのちの日」宗教者プロジェクト実行委

員会が主催。僧侶や神主ら10人が、律宗大本山壬生寺(京都市中京区)から京都市役所までの3.4キロを歩いた。京都府が定めた「京都いのちの日」(3月1日)に

合わせて2016年から行われており、今年で8回目。宗教者には、悩みやつらさを抱える人に向けて「あなたとあなたの大切な人が、すこしでもこころやすらふように、私たちがそばにいます」「疲れたときは、疲れたと言っていていいですよ。悲しいときは、悲し

んでまた増加傾向にある。若年層がしわ寄せを受けている」と懸念を示した。『Life Walk』にちなみ、浄土真宗本願寺派総合研究所は毎年3月1日(本報5頁51頁)に、

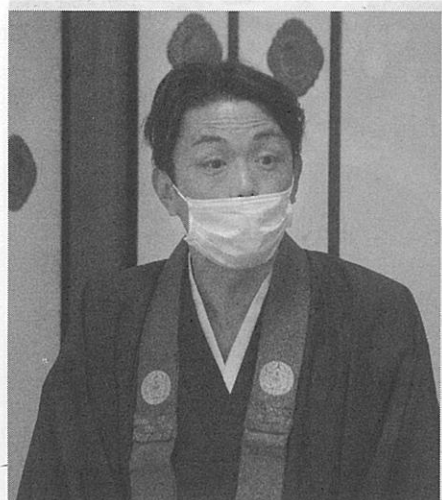
### 共に歩む手紙の往復

行進に先立つ開会式では、自死・自殺に向き合う僧侶の会の福井智行(福井市)が講演し、会の活動である「自死の問い・お坊さんとの往復書簡」について語った。相談者と僧侶が手紙をやりとりし、相談者の回復を促すプロジェクトで、2010年に始まった。福井住職は46人に計349通の手紙を送り、団体全体では1万通を超えていることを伝えた。



京都・東洞院正面 (371)4151代

相談者との向き合い方を示すために、悪い手紙の事例を紹介。ひきこもりになった学生を「がんばれ」と励まし、両親と話し合うよう提案した手紙について、福井住職は「気持ちを受け止めず、安易な提案を



「往復書簡」について講演する福井住職